

<歯周炎と咬合性外傷：歯がぐらぐらで噛めない・噛むと痛い>

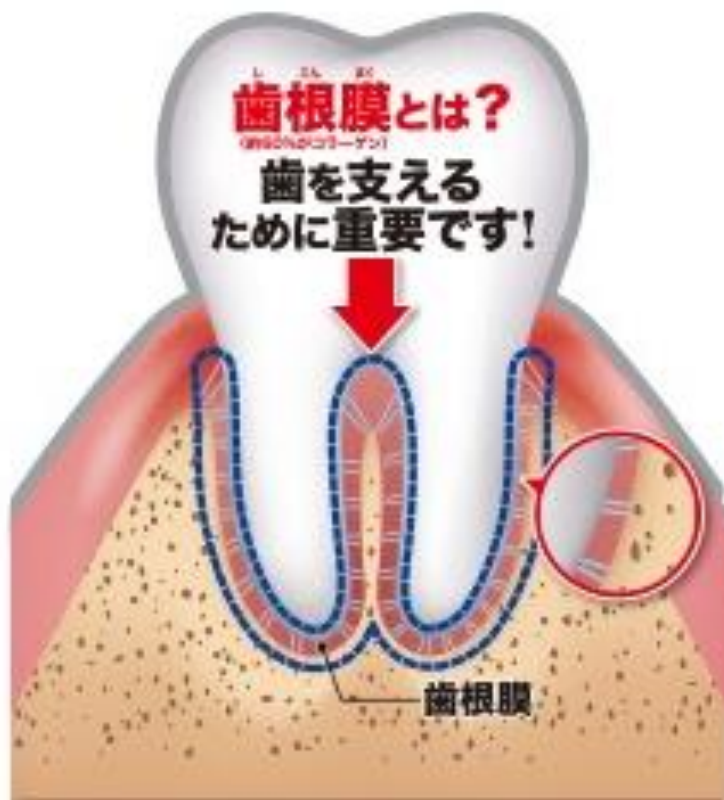
今回は、歯周病に関連したお話をさせていただきます。オーナー様も経験がある方がいらっしゃる場合もあるかもしれません。

我々人間だけでなくワンちゃん、ネコちゃんにとっても歯周病のうちとくに歯周炎は、歯の周囲組織が炎症を起こし、破壊され、歯が脱落する病気であることは以前お話しました。



歯の根っこの周囲には、骨と歯を結合させる歯根膜とよばれる靭帯のような構造があります。これは噛んだ力を緩衝するクッションの働きをしてくれます。

この歯根膜に、特に急性の炎症が起きると、歯の接触や物があたったときに強い痛みを生じます。



重度歯周炎の状態では、この歯根膜や周囲骨がかなり破壊されているため、歯の動揺も強くなります。そのような状態では、上下の歯が噛み合うとき（咬合）、通常の間であっても、弱った歯根膜や周囲骨

に外傷を起こすことがあります。

この咬合したときに引き起こされる **歯周組織の外傷を咬合性外傷**とよびます。咬合性外傷は、外傷性咬合（過度な咬合力や側方力などの異常な力）によって引き起こされる歯周組織の外傷で一次性と**二次性**に分類されています。

今回は歯周炎で弱っている二次性咬合性外傷についてのお話です。

一次性は今度詳しくお話いたします。

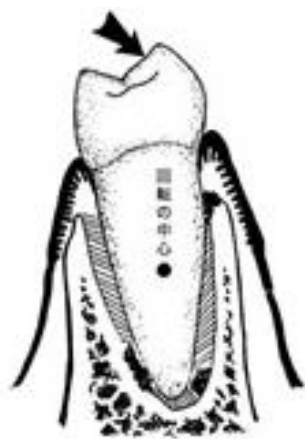


図4-a
一時性咬合性外傷

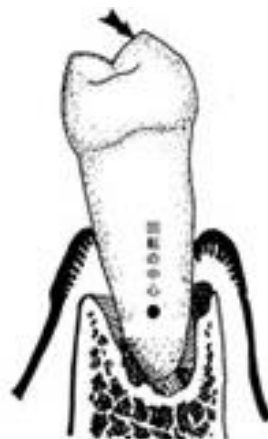


図4-b
二次性咬合性外傷
歯周組織の破壊が大きい

(1) 一次性咬合性外傷

一次性咬合性外傷とは、歯に過度な咬合力が加わることによって歯周組織に外傷が生じたもの

(2) 二次性咬合性外傷

二次性咬合性外傷とは、歯周炎の進行で顎骨が減少して咬む力に対して、受け止める力が低下した歯に生じる外傷であり、過剰な力ではなく、通常の咬む力によっても引き起こされる。

例えるなら、筋トレしてムキムキのお兄さん（歯周組織）が 100Kg の重り（咬合力）を今まで軽々持ち上げられていたが、足腰を悪くしてしまい、それ以降 100Kg の重りはおろか、50Kg の重りさえも持ち上げられなくなってしまったようなものです。

この咬合性外傷は、歯周炎を進行させる修飾因子として働いてしまうので、これを除くことが必要になっていきます。放置しておくとその部位における歯周炎が他の歯周炎部位に比べて急速に進行するなどしてしまい、強い痛みを生じることがあります。

歯周病の原因である細菌を物理的、化学的に減らす歯周処置を行った後、歯が浮いてしまっている場合などで、噛んだときに早期に歯が接触しており動揺の著しい部位は、咬合調整といって上下の歯が強く当たらないように噛み合わせを落とすために歯を一部削ります。

また歯科材料により隣在歯と固定して動揺を減らします。これらの処置を行うことで噛んだときの歯周組織への負担を軽減し、安静化させるようにしていきます。

歯科レントゲン診査を行い歯周組織の状態を精査した上で、必要と判断した場合に上記処置を行うことがありますのでご承知おきくださいますようよろしくお願い申し上げます。

さて、この咬合性外傷という視点から考えると、市販で売っているイヌ用の歯磨きおもちゃ（固いもの）、オヤツ（骨・乾燥アキレス腱・乾燥ジャーキーなど固いもの）は中度～重度歯周病には不向きと考えられます。場合によってはデンタルガムすら不向きとなることもあり得ます。

人間で例えるのは適切でないと思いますが、歯がぐらぐらして噛めない人に、よく噛まないといけないビーフジャーキーや、するめ、固いげんこつ煎餅をあげるでしょうか。

ふやかさない限りは、まず痛くて食べられないと思います。

人の患者さんを日々診療していると、歯を含めて口の中がどういう状態のときにどんな痛みがでるのが分かることから、ほぼ同じ病気にかかる動物たちの痛みもなんとなく想像できる気がしております。



我々は、その辛さを理解し、どうすれば症状を楽にしてあげられるかを考えて日々診療に当たっております。

最後にもう一つ、歯周病の最大の予防手段は歯ブラシです。

こちらのブラッシング指導について、オーナー様にはいつも口頭での内容となっていたため今後、実際に実演形式で行わせていただき、予防に益々力をいれて取り組んで参る所存ですので、何卒よろしく
お願いいたします。

